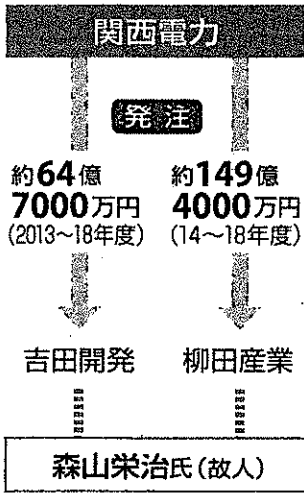


関電から214億円工事受注

18年度まで6年 元助役関係2社

関西電力役員らが高浜町の元助役森山栄治氏（故人）から多額の金品を受領していた問題で、森山氏と関係が深かった二社が二〇一三―一八年度、関電側から福井県に立地する高浜、美浜、大飯の三原発の関連工事などを少なくとも計約二百十四億円受注していたことが八日、分かった。＝面参照

関西電力側から 森山氏関連企業への 工事発注



一社は森山氏が顧問だったとされる高浜町の建設会社「吉田開発」と、「相談役」として雇用されていた

と、一三―一八年度に関電側から六十四億七千万円の工事を受注。工事経歴書によると、高浜原発の緊急用施設の敷地造成工事、大飯原発の土石流対策工事などを担っていた。

金沢国税局は一八年一月、吉田開発への強制調査に着手。裏金を捻出し、工事受注に絡み世話になっていた森山氏に約二億円を提示した。

贈答や接待に上限

関電、再発防止策検討へ

関西電力役員らの金品受領問題で、関電が役員らの贈答や接待に上限額を設定したり、処分ルールを新設したりする再発防止策を検討することが八日、分かった。非常識な要求を受けた場合

の相談窓口や支援態勢も強化、組織としての対応を徹底する。第三者委員会の調査結果を踏まえ本格化する再発防止策でどこまでガバナンス（企業統治）改革を進められるかが問われそう

だ。役員らは現金や商品券を「預かった」と保管する一方、五十万円相当のスーツ仕立券は実際に使っていた。岩根茂樹社長は当初「儀礼的な範囲」としていたが、

供していたことを把握した。一方、柳田産業は七一年の設立。工事経歴書によると、一四―一八年度に関電側から約百四十九億四千万円を受注していた。ほぼ三

原発関連で管やポンプの点検・修繕工事、水タンク塗装修繕工事などを手掛けた。関電は二日に公表した調査報告書で「金品を渡される際、森山氏から工事発注や個別の案件で要求があることはなかった」としている。

二日の記者会見で「認識が甘かった」と説明を翻し、使用したスーツ分も返却する方針を示した。豊松秀三元副社長ら二人は一億円を超える法外な金品を受け取っていた。関電は「コンプライアンス指針」で社員に贈答や接待での節度を求めているが、具体的な金額の上限や目安は示しておらず、より明確なルールが必要かどうか検討する。役員らの処分は特定のルールがなく、今回は一般社員向けの就業規則に準じ岩根氏が決裁した。金品を受け取っていた岩根氏が最終決定した社内処分の妥当性に批判が集まったため、役員らの処分ルールの新設も検討する。

金品を受領した役員らが個人で管理して返却を試み情報を全社的に共有しなかった対応も問題視されている。コンプライアンス担当への報告を徹底し、必要に応じて外部の専門家の助力も得られるようにする。